

単元案の概要

テーマ
私の大切な場所の紹介／一週間の活動マニュアル作り
目標
*学習レベル 3・4 A 大学の日本語学習者が、東京に来る同世代の若者(国籍の別問わず)に向けて、自分の興味や関心のある場所やものについて案内する情報をまとめ、一週間の活動マニュアルを作成する。
コミュニケーション能力指標
自分と身近な人びと 3-b 好きなことやもの・人について、その理由を含めて、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。 自分と身近な人びと 3-c 自分の経験について、語り合ったり、書いて伝えたりできる。 食 4-b 現代の若者の食生活について読んだり聞いたりして、その内容について、口頭でまたはメールや手紙などを使って意見交換できる。 衣とファッション 3-b いま、自分たちの間で流行しているファッションについて、写真などを用いて、簡単に紹介しあうことができる。 衣とファッション 3-c 服装や小物、髪型などの流行について、思ったことや感じたことを、文章で表現できる。 衣とファッション 4-b 自分のファッションに対するこだわりについて、話し合うことができる。 衣とファッション 4-c 相手の国の伝統服や民族衣装について調べその特徴(歴史や地域性、現代の利用状況など)について、レポートにまとめることができる。 趣味と遊び 3-b 好きな事や熱中していることの、すばらしさやおもしろさを、口頭で伝えることができる。 趣味と遊び 3-d 自分の周りではやっていることやものについて、写真や実物を使いながら、口頭でまたは書いて説明できる。 趣味と遊び 4-c に本と相手の国の余暇の過ごし方について、インターネットなどで調べ、その結果を、口頭で発表したり、レポートにまとめたりできる。 買い物 2-f 買い物の情報を、口頭でまたは書いて、アドバイスできる。 買い物 3-h 日常の買い物について、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。 交通と旅行 3-a 目的地までのアクセス方法を尋ねたり、説明したりできる。 交通と旅行 3-b 観光地の案内プレートや説明文・ガイドブックの大意を理解できる。 交通と旅行 3-e お勧めの旅行先について理由を含めて語り合うことができる。 交通と旅行 3-f 自分の住んでいる地域の交通事情について、口頭または文章で説明できる。 行事 3-c 日本の行事の由来や意味・一般的な過ごし方について口頭または文章で説明することができる。 地域社会と世界 3-a 地域で行われる行事について、自分や相手がそれにどう関わっているかなどを含めて、尋ねたり、簡単に説明したりできる。
学習シナリオ
A 大学の日本語クラス(初級後半から中級前半レベル)では、次年度来日する留学生や地方に住む学生(国籍の別を問わない)に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行うこととなった。成果物として、情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成する。 具体的な活動の手順としては、まず、3名のグループを作った(人クラス12名のため4チーム)。グループごとに、自分たちの紹介したいことを検討し、発表する(活動①)。次に、なぜ、そのテーマにしたのか。他者に対し、何を伝えたいのか。そのために、どのような情報をどのよ

うに収集すべきかについて検討する(活動②)。検討した結果をクラス全体でシェアするためにプロジェクトの発表を行う(発表①)。情報収集・調査は主にドキュメント調査(書籍・インターネットサイト)とフィールドワーク調査、インタビュー調査によって行われる。まずドキュメント調査では、テーマ(「秋葉原」「原宿」等)に基づいて、複数のトピック(ファッション、飲食、歴史等)を立てる。複数のトピックについて検索語彙をメンバーで検討し、分担してインターネットで調べる(活動③)。調べた結果を基に、さらに深めたいトピックを取捨選択し、関連する書籍を図書館の司書の方に相談して探し(交流①)、メンバーで分担して読みまとめる(活動④)。現地調査にメンバー全員で赴く(活動⑤)。調査対象について詳しい日本人にインタビュー調査を行う(交流②)。

調査で得られた情報をパワーポイントにまとめ発表し、フィードバックをもらう(発表②)。フィードバックに基づいてパワーポイントを修正し、まとめる(成果物①)。さらに、調査で得られた情報をもとに一週間の活動マニュアルを作成する(成果物②)。他のグループの成果物(パンフレット・発表)を見て、それぞれのグループの良いところ・改善すべきところについて評価しあう。

これらの成果物をインターネット上で希望者、あるいは、次年度留学生に限定公開し SNS を通じて交流する(発表③)。本プロジェクトは毎年度実施し、成果物を蓄積し、さらに SNS 上での交流は継続的に実施される(活動⑥～)。

総括的評価

- ・ 関心のあるテーマについて他者との協働を通して調べることができる。
- ・ ドキュメント調査(書籍・インターネットサイト)とフィールドワーク調査、インタビュー調査等、複数の調査を計画し、実行することができる。
- ・ 得られた情報を複数人でまとめ、他者に伝えることができる。
- ・ 他者の発表や意見を受け止め、議論や討議ができる。
- ・ わかりやすく、見やすく、使いやすい PPT 資料とマニュアル作成ができる。
- ・ 自らが作成した成果物を読んだり見たりした他者とのコミュニケーションを通して、考えや理解をさらに深めることができる。

【ワークシート3×3+3分析】

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことについて調べたり聞いたりするために必要なことばと表現がわかる。 発表やインタビューをするために必要な語彙・表現がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについて、他者が不足している情報や理解が難しい点についてわかる。 これから留学する学生や他の地域に住む学生が東京に来た時に直面する問題や課題、疑問点などについて推察し、どのようにすればよいかわかる。 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについて、歴史的な背景や文化的特徴についてわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについて、日本と他国との関係や歴史的な背景、文化的特徴についてわかる。 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについてまとめ、他者への案内を作成した際に、SNSを通して発進し、学内外、国内外の人々と交流する方法についてわかる。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットで必要な情報があつめられる。 インタビューをして情報が収集できる。 案内と紹介の文章が作成できる。 アドバイスをもとに資料を作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについて、他者が不足している情報や理解が難しい点について分析できる。 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについて、他者が不足している情報や理解が難しい点について整理し提示できる。 自分たちが興味と関心を持つ場所とものについて、歴史的な背景や文化的特徴について理解し、他者に伝える事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの考えを明確に述べるができる。 グループメンバーと意見交換し、協力しながら活動することができる。 活動目標を達成するために、必要な情報を書籍やインターネット、インタビューなどを通して収集することができる。 得られた情報を整理しまとめることができる。 他者にわかりやすく伝えるために資料を作成することができる。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を使って、大学図書館の司書の方や、学内外の学生とコミュニケーションしながら関係を構築する。 作成したパワーポイントと活動マニュアルと、インタビュー録をこれから留学する学生と、東京に来る学生にプレゼントする。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトを通してチームメンバーやクラスメート、学内外の人々と相互に交流ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果物を SNS 上にアップロードし、他者とのコミュニケーション活動をすることができる。
三連携	連携1：大学生の関心のある分野と繋がる。 連携2：既習内容、学生の観光案内の経験と繋がる。 連携3：教室外の人・モノ・情報と繋がる。		

目標の要素分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
チームで紹介したいものについて自由に出し合い、話し合う。	何について紹介するかを決める。	テーマを設定し活動手順と分担を決める。	私の大切な場所の紹介／一週間の活動マニュアル作り A 大学の日本語学習者が、東京に来る同世代の若者（国籍の別問わず）に向けて、自分の興味や関心のある場所やものについて案内する情報をまとめ、一週間の活動マニュアルを作成する。
いくつかの候補にしぼり、なぜ、そのテーマにするのかについて議論する。			
必要な情報が何かを整理する。	どのような情報をどのように収集するかを決める。	必要な情報を収集しまとめる。	※A 大学の日本語クラス（初級後半から中級前半レベル）では、次年度来日する留学生や地方に住む学生（国籍の別を問わない）に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行うこととなった。成果物として、情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成する。
必要な情報はどのようにすれば入手できるかについて考える。			
テーマにした場所やものについて、その特徴や内容を調べる。	メンバーと協力し合いながら、必要な情報を書籍やインターネットで収集する。	必要な情報を収集しまとめる。	※A 大学の日本語クラス（初級後半から中級前半レベル）では、次年度来日する留学生や地方に住む学生（国籍の別を問わない）に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行うこととなった。成果物として、情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成する。
テーマにした場所やものについて、その歴史的背景を調べる。	メンバーと協力し合いながら、必要な情報をインタビューで収集する。		
テーマにした場所やものについて関わりを持つ人物に聴き取り調査をする。	得られた情報を整理する。		
収集した情報を報告し合い、整理する。	チームの設定したテーマについて、動機と目的、調査対象、方法と併せて説明する。	調査で得られた情報をまとめ発表する。	※A 大学の日本語クラス（初級後半から中級前半レベル）では、次年度来日する留学生や地方に住む学生（国籍の別を問わない）に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行うこととなった。成果物として、情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成する。
なぜそれをテーマにしたのか、何のために紹介したいのか、何をどのように調べたのか、について説明文を作成する。	調査で得られた情報を整理し、パワーポイントのスライドにまとめる。		
収集した情報を取捨選択し、紹介に必要な情報をまとめる。	発表をし、意見交換をする。	調査で得られた情報をまとめたパワーポイントのスライドと、一週間の活動マニュアルを作成する。	※A 大学の日本語クラス（初級後半から中級前半レベル）では、次年度来日する留学生や地方に住む学生（国籍の別を問わない）に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行うこととなった。成果物として、情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成する。
発表用のパワーポイントのスライドと原稿を作成する。	調査で得られた情報をまとめたパワーポイントのスライドを作成する。		
どのような構成と内容で紹介するかについて考える。	一週間の活動マニュアルを作成する。		
収集した情報を整理しパワーポイントのスライドに肉付けして行く。			
案内に基づいて一週間どのような流れで活動すればそれを堪能できるかについて話し合いまとめる。	一週間の活動マニュアルを作成する。	調査で得られた情報をまとめたパワーポイントのスライドと、一週間の活動マニュアルを作成する。	※A 大学の日本語クラス（初級後半から中級前半レベル）では、次年度来日する留学生や地方に住む学生（国籍の別を問わない）に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行うこととなった。成果物として、情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成する。
わかりやすくみやすい形で、一週間の活動手順を書き出す。			

評価ルーブリック

テーマ：私の大切な場所の紹介と一週間の活動マニュアルづくり

作成：田中祐輔

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
協働活動	メンバーと共にグループの目標とそのための活動項目を明確に設定し、協力して活動する。自らや、メンバーの持つ知識や能力をチーム全体の活動に最大限活用している。	メンバーと共にグループの目標とそのための活動項目を設定し、協力して活動する。	メンバーと共にグループの目標とそのための活動項目を設定し、協力して活動しているが、メンバーの持つ知識や能力をチーム全体の活動に最大限活用できてはいない。	メンバーと共にグループの目標とそのための活動項目が設定できておらず、協力して活動できていない。メンバーの持つ知識や能力をチーム全体の活動に最大限活用できてはいない。
日本語	案内する場所やものについての情報を収集する際、得られた情報を整理してまとめる際、発表する際、そして、資料 PPT や活動マニュアルを作成する際に、適切かつ豊かな日本語が用いられている。読み手や聞き手にわかりやすく丁寧な日本語が用いられている。	案内する場所やものについての情報を収集する際、得られた情報を整理してまとめる際、発表する際、そして、資料 PPT や活動マニュアルを作成する際に、適切な日本語が用いられている。	案内する場所やものについての情報を収集する際、得られた情報を整理してまとめる際、発表する際、そして、資料 PPT や活動マニュアルを作成する際に、一部誤りのある日本語が用いられている。理解に支障はないが、読み手や聞き手への配慮に欠けた表現が見られる。	案内する場所やものについての情報を収集する際、得られた情報を整理してまとめる際、発表する際、そして、資料 PPT や活動マニュアルを作成する際に、誤りのある日本語が用いられている。理解に支障をきたし、読み手や聞き手への配慮に欠けた表現が用いられている。
成果物	書籍やインターネットサイト、インタビュー、フィールドワークで得られた情報をきちんと整理し、スライド資料と活動マニュアルとしての確にまとめている。オリジナリティあふれる内容で、読者に役立つものとなっている。	書籍やインターネットサイト、インタビュー、フィールドワークで得られた情報を整理し、スライド資料と活動マニュアルとしてまとめている。	書籍やインターネットサイト、インタビュー、フィールドワークで得られた情報を整理し、スライド資料と活動マニュアルとしてまとめているが、一部不足点が見られる。	書籍やインターネットサイト、インタビュー、フィールドワークで得られた情報を整理し、スライド資料と活動マニュアルとしてまとめているが、不足点や誤りが多く見られる。

指示文(プロジェクト開始時)

このクラスでは、次年度来日する留学生や地方に住む学生(国籍の別を問わない)に対し、東京を満喫するための情報を伝えることを目的として、自分たちが関心のあるトピックについて調べ、まとめる活動を行います。情報をまとめたパワーポイントのスライド、及び、一週間の活動マニュアルを作成し、SNS上で次年度来日する留学生や地方に住む学生に発信し交流します。プロジェクトは以下のステップで行います。

- ①3名のグループを作りグループごとに、自分たちの紹介したいことを検討し、発表する。
- ②なぜ、そのテーマにしたのか。他者に対し、何を伝えたいのか。そのために、どのような情報をどのように収集すべきかについて検討する。
- ③検討した結果をクラス全体でシェアするためにプロジェクトの発表を行う。
- ④情報収集・調査を行う。※主にドキュメント調査(書籍・インターネットサイト)とフィールドワーク調査、インタビュー調査によって行われる。まずドキュメント調査では、テーマ(「秋葉原」「原宿」等)に基づいて、複数のトピック(ファッション、飲食、歴史等)を立てる。複数のトピックについて検索語彙をメンバーで検討し、分担してインターネットで調べる。調べた結果を基に、さらに深めたいトピックを取捨選択し、関連する書籍を図書館の司書の方に相談して探し、メンバーで分担して読みまとめる。現地調査にメンバー全員で赴く。調査対象について詳しい日本人にインタビュー調査を行う。
- ⑤調査で得られた情報をパワーポイントにまとめ発表し、フィードバックをもらう。
- ⑥フィードバックに基づいてパワーポイントを修正し、まとめる。
- ⑦調査で得られた情報をもとに一週間の活動マニュアルを作成する。他のグループの成果物(パンフレット・発表)を見て、それぞれのグループの良いところ・改善すべきところについて評価しあう。
- ⑧これらの成果物をインターネット上で希望者、あるいは、次年度留学生に限定公開しSNSを通して交流する。

紹介パワーポイントと活動マニュアルについて

(内容) オリジナリティを重視します。

(文章)

- (1) どうしてこのテーマにしたか。このテーマの何について調べたか。
- (2) 「〜」の紹介
歴史、特徴、興味深い点
- (3) 自分たちの国との比較
- (4) 自分たちの意見
- (5) 「〜」の日本語も10個紹介する
- (6) 一週間の活動マニュアル

ポイント

- ①インターネットと、日本人へのインタビューと、本を必ず参考にする。
- ②文章と写真をバランスよく配置し、読みやすくわかりやすいものとする。

発表の評価方法

- ・資料が引用できている
- ・インタビューをきちんとしている
- ・PPTがしっかり作れている
- ・PPTでの文法、語彙、表現が正しい
- ・わかりやすく説明できている

- ・締め切りがきちんと守れている

発表

- ・発表するチームは前で発表してください。
- ・聞いている人は「評価シート」と「感想シート」をかいてください。
- ・「評価シート」は先生にだしてください。(先生 50%+みなさん 50%)
- ・「感想シート」は発表したチームにだしてください。

感想カード		さんへ	月	日	なまえ
とても良かったところ	<hr/> <hr/>				
面白いと思ったところ	<hr/> <hr/>				
質問	<hr/> <hr/>				

- ・発表したことを「ウィークリーマニュアル」レポートにしてください。

* 東京にいない他の学生が読みます。

* 800-1200words

レポートの構造をはっきりする

(1) 背景

- ・ どうして原宿にしたか

(2) 目的

- ・ なにを知りたいか／なにを紹介したいか

(3) 方法

- ・ どうやって調べたか (本・インタビュー・インターネット)

(4) 結果 ※写真付

- ・ なにがわかったか (歴史・特徴・自分たちの国との比較)

(5) 意見とウィークリーマニュアル

(6) 参考資料リスト

【評価シート】

発表（はっぴょう）の評価（ひょうか）

※□に✓を入れてください。

□ Total:

- (1) 資料（しりょう）が引用（いんよう）できているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (2) インタビューをきちんとしているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (3) PPTの内容（ないよう）がしっかり作れているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (4) PPTでの文法（ぶんぽう）、語彙（ごい）、表現（ひょうげん）は正しいか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (5) わかりやすく説明（せつめい）できているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (6) 締（し）め切（き）りがきちんと守（まも）られているか。
□5 □4 □3 □2 □1

□ Total:

- (1) 資料（しりょう）が引用（いんよう）できているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (2) インタビューをきちんとしているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (3) PPTの内容（ないよう）がしっかり作れているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (4) PPTでの文法（ぶんぽう）、語彙（ごい）、表現（ひょうげん）は正しいか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (5) わかりやすく説明（せつめい）できているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (6) 締（し）め切（き）りがきちんと守（まも）られているか。
□5 □4 □3 □2 □1

□ Total:

- (1) 資料（しりょう）が引用（いんよう）できているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (2) インタビューをきちんとしているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (3) PPTの内容（ないよう）がしっかり作れているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (4) PPTでの文法（ぶんぽう）、語彙（ごい）、表現（ひょうげん）は正しいか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (5) わかりやすく説明（せつめい）できているか。
□5 □4 □3 □2 □1
- (6) 締（し）め切（き）りがきちんと守（まも）られているか。
□5 □4 □3 □2 □1

学習者の個人的特性に対する対応

田中祐輔

学生 A

<特徴>

- ・ フランスから来た留学生。
- ・ 中級前期のクラスに参加しているが、既に6年の学習経験がある。
- ・ 母国では「織田信長と一向一揆」の研究を行っている。日本語能力と知識は、他の学生と比較するとずば抜けている。
- ・ 他の学生との活動の際に、本人の動機付けが弱くなってしまったり、他の学生がついていけなくなってしまったりする可能性がある。

<対応>

本学生に対する対応としては、グループで調査活動を行う際に、より深く、より詳しい情報を得る際の橋渡し役をしてもらうこととした。例えば、現地調査に行く際、他のグループでは、こみいった質問については予め紙に書き起こした質問文を利用して日本語話者へのインタビューを行うが、相手の返答が必ずしも十分に理解できるわけではない時がある。そうした場合は、やむを得ず英語等を用いたり、身振り手振りを用いたりして分かる範囲までを理解して発表に挑む形となるが、本学生が所属するグループでは、そうした場合でも、本学生が仲介役となるため、かなり深い議論が可能となった。こうしたことは、本人の動機付けにもつながった可能性がある。

学生 B

<特徴>

- ・ アメリカから来た留学生。
- ・ 日本語と日本文化に強烈な関心があるが、マイペースな面があることから、時にグループのメンバーから不満が生じることがある（学生たちの集まりに来ない、分担した作業を行わない、自分の関心がない場合はほとんど調べようとしない等）

<対応>

本学生に対しては、グループで取り扱うトピックを討論する際に、自分が何に関心があり、何をやりたいのか、他のメンバーとどういった取り組みを行いたいのか、について精一杯表明するよう、事前に教員から本学生に対して伝え、それがグループ活動を他者と行う上でなぜ必要か、いかに重要かについて話し合った。結果的には、本人のやりたいことと全く同じトピックにはならなかったが、他の学生から頼りにされるほど熱心に取り組んでいた。他のメンバーから出た案とのすり合わせが行われたことで、本人も決定に関わったという意識が強まったことも一因にあるのではないかと考えている。